

⑱黒谷川 河川災害復旧助成事業

受賞機関 福島県 南会津建設事務所

<評価>

平成23年7月の新潟・福島豪雨により、甚大な被害が発生した只見川流域の黒谷川の災害復旧事業。現地の発生材を使用して環境と防災の調和を図り、現地の風景や自然環境と非常によく調和している点が評価された。

はじめに

阿賀野川水系の黒谷川は、会津朝日岳に源を發し、伊南川に合流する流路延長約27km、流域面積158km²の一級河川である。

急流で、河積が十分に確保されていなかったことから、平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害を受けた。

この豪雨により堤防の決壊や流路の変動などが起き、単独復旧のみでは十分な効果が期待できないことから、安全性の向上を図り再度災害防止のため、河川災害復旧助成事業の認可を受け、概ね30年確率の豪雨に対応できる、安全で自然と共生する川づくりを目指した河川改修を行った。

事業の概要・成果

整備延長は6.636km、主な構造物は護岸工約6万m²、床止工7基で事業費は約36億円である。

本河川は清冽で、カジカやヤマメ、ユビソヤナギなどの貴重な動植物が生育する豊かな自然と景観を有しており、整備にあたっては、これに配慮した計画とした。

- ①環境面では、床止工は全面斜路形式とし、かつ、みお筋を設けることで、魚類等の生息に配慮した。
- ②景観面では、現地採取による自然石を護岸等に利用す



黒谷川 河川災害復旧助成事業

ることで、コスト縮減を図るとともに、従来の景観を損なわないよう配慮した。

- ③工事期間中の周辺住民への影響については、工事用車両の住宅地周辺での通行自主規制や積極的な工事情報の発信など、周辺住民の生活へ配慮した。

おわりに

本事業は、延長約6.6kmの大規模な河川改修であったが、栃木県からの職員派遣をはじめ、現場技術者も全国からの支援を受け、概ね5年という短期間で完了できた。その結果、平成27年9月関東・東北豪雨では被害が発生せず、水害に対する周辺住民への安心感も高まったところであり、本事業に携わった多くの方々に心から感謝するものである。

⑳小松川地区高規格堤防整備事業

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所

<評価>

一級河川最大の人口密度となり、膨大な資産や公共機能が集中している荒川下流域で、東京都施行の再開発事業と一体となって水害に強いまちづくりを進めた事業。住宅、公園、道路や学校等の多数の事業と調整を行い、治水安全度の飛躍的向上に寄与した点や高台化された地域が避難所として指定され防災拠点の役割を担っている点などが評価された。

はじめに

荒川の下流部は東京湾の平均満潮位より低い土地、いわゆるゼロメートル地帯にありながら、人口、資産、社会経済活動の中枢機能が集中しており、万が一、堤防が決壊すれば、壊滅的な被害が発生することが想定されている。

高規格堤防は計画の規模を上回る洪水（超過洪水）に対しても決壊しない堤防であり、また、まちづくり事業と一体となって実施することにより、地域住民の人命を守る安全で良好な住環境を形成するとともに、河川から離れた地域の安全度も高めるものである。

事業の概要・成果

小松川地区（東京都江戸川区）は、荒川と旧中川に挟まれた低平かつ軟弱な地盤に戦前から工業、住宅及び商業が進出し、家屋等が混在・密集した防災上、非常に脆弱な地区であったため、江東再開発基本構想（昭和44年）の防災6拠点の一つとして、昭和50年の都市計画決定以降、東京都において市街地再開発事業が進められている。

荒川下流河川事務所では、これに合わせ平成2年に高規格堤防整備事業に着手し、江戸川区の千本桜整備事業等と

も一体となって、平成14年までに大島小松川公園周辺において高規格堤防の整備を行った。その後、上流の首都高速7号小松川線周辺において、東京都の市街地再開発事業や都営住宅建設事業、江戸川区の中学校建設事業と一体となって、それぞれの敷地で高規格堤防の整備を進め、平成27年度末に市街地再開発事業の敷地の盛土工事を完了した。これにより荒川ロックゲートから国道14号（京葉道路）までの一連区間で計画していた高規格堤防が全て完成した。

高規格堤防の整備により、洪水や高潮による越流、浸透等に対して堤防の安全性が格段に向上し、浸水被害を最小限に食い止めることが可能となり、また、洪水時や地震の際には避難場所としても利用されるなど、地域の方々の安全・安心に寄与するものと期待している。

おわりに

高規格堤防の整備に当たっては、まちづくり構想や都市計画との調整を行うことが必要であることから、引き続き関係者との調整を図りつつ、順次事業化を進めていくこととしている。



小松川地区高規格堤防整備事業